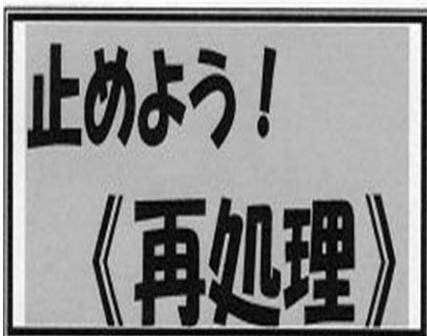


三陸の海を放射能から守る 岩手の会

郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理／岩手の環境》
http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm
《まった再処理分庫》
http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag



《天恵の海》

2012(平成24)年
10月4日
第118号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

これで首都圏の安全は確保できるのか?

JAEAからの再回答書届く

脱原発とうかい塾、岩手の会など全国七〇余の市民グループ連名の東海再処理工場の安全に関わる再質問書への『再回答書』が、日本原子力研究開発機構（JAEA）から七月二四日付で到着しました。事故が起これば、被害は首都圏のみならず日本全域に及ぶといわれる東海再処理工場の安全策はこれで良いのか、大きな危惧の念を抱きながら、その概要と問題点を報告します。

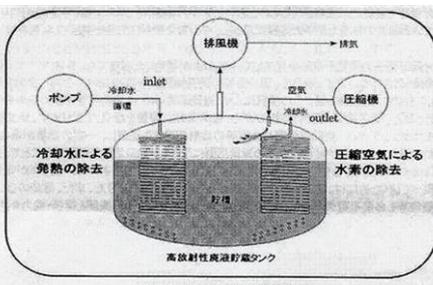
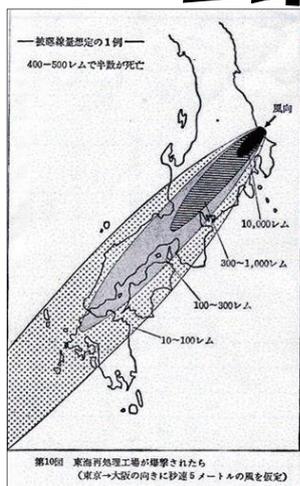


図-1 高放射性廃液貯槽概要図

再回答書 資料 東海工場の高レベル廃液貯槽

***理事長名の回答書ではなかった**
今回の「再回答書」は期限を守ったものの、理事長名ではなく「(独)日本原子力研究開発機構」名であり、問い合わせ先が「東海センター管理地域交流課」となっています。そして「追加質問は文書で。回答には一ヶ月くらいの猶予を頂く」と書かれています。責任者を交えて口頭での説明責任に応じようとする姿勢は社会的責任の自覚の欠如を示すものです。

原子力安全・保安院は本年三月「東電福島原発事故の技術的知見について」とする文書を公表しました。その中の「今後の規制に反映すべき視点について」では、「深層防護」の考えに基づく厳格な『前段否定』の考え方を適用する必要があります。原発における事故の深刻度を一〜四段に分けて想定し、

想定を超えるごとに、次に取られるべき対策を述べています。
私たちの再質問書では、まずこの「深層防護」の考え方を再処理工場に当てはめて質問しました。

高レベル廃液管理に絶対安全の確信は持てず
残念ながらこの深層防護の考えによる事故

東海再処理工場放射能漏れ事故の想定
高木仁三郎氏のシミュレーション
一九八三年刊『核時代を生きる』

これだけは聞かねばならない! JAEA 再回答は答えているか?

- ◆超危険物「高レベル廃液」を扱う事業者としての責任の自覚はあるか?
- ◆「大津波でも廃液タンクは海水で冷やされ、安全」というのは本当か?
- ◆高レベル廃液過酷事故に対して最後の手段はあるのか?

*「『岩手の会』ホームページ」に「再回答書の全文とその詳しいコメント」掲載。

原発に適用される「深層防護」、再処理では?

1、保安院の「原発の深層防護」に関わっての質問

市民団体再質問	JAEA の再回答書の要旨
問1 再処理工場の安全について法制上だけでなく JAEA 独自の対策は?	今後シビアアクシデント対策が法制上の要求事項になると思うが、対策を講じ、安全確保に一層努める。
問2 あらかじめ想定を超える場合を考へての対策は?	福島原発規模の津波に対応できる対策を実施した。さらにシビアアクシデント対策を向上させている。
問3 「前段否定による深層防護」(十分な対策を実施するが、その効果を否定しさらに事故が発生したと想定し、次なる対策を実行する発想)をどう考へるか?	東海工場の場合、仮想的臨界事故や火災事故を想定しても周辺公衆への影響は小さい。再処理の場合「前段否定の事象」として全電源喪失による安全維持機能の喪失を仮定するが、緊急安全対策を実施。
問4 前回の回答では、保安院のいう深層防護の第3段止まりである。第4段「炉心溶融が始まった場合」に相当する「高レベル廃液貯槽の電源喪失、液温上昇」が始まった場合の対策は?	高レベル廃液貯槽の液温上昇と圧力が増加してゆく場合、廃液貯槽内の空気(オフガス)の放射能を出来るだけ取り除きモニターで監視しつつ放出する。「緊急用圧力逃し系」を経てフィルターを通し環境放出する。
問5 全電源喪失や高線量放射能状態など過酷な状況での操作性確保はなされているか?	移動式電源車や冷却用ポンプ車を配備し、制御室の空気循環装置の設置や防護服の常備、計画的訓練などを行っている。

対策を具体的に点検すればするほど、『この世で最も危険』と言われる高レベル放射性廃液の絶対安全な管理は見えなくなつてゆくように思われます。

例えば、「深層防護第四段」にあたる「廃液貯槽の液温上昇、圧力増加の事態に陥った場合」、「貯槽内ガスの放出を行う」という回答をしています。しかし、これは原発のベントと同じで、原発とは比べられないほどの高い濃度の放射性ガスを環境へ放出させることになり納得出来ません。

さらに前回提出した質問の回答に対して、疑問点を質しました。

セルに冷却水を注入し沸騰を防ぐ？

まず、高レベル放射性廃液タンクの全電源が喪失した時、廃液の沸騰や水素爆発をどう防ぐかについてです。

「セルの換気口から冷却水を注入する」と回答しています。「セルは頑丈に出来ているから配管などは破損しない」と

いう前提ですが、色々な場合を想定し科学的な実証試験をした上で、結果を公表し、説明しなければ安心できません。

「配管破断は想定外？」

回答書では、「パイプ破損はない」という判断がまずなされ、移動式の

発電機や窒素注入装置で対処できるとしています。これでは「前段否定の考え方」に反し合理的ではありません。「パイプ破断や冷却装置の故障は必ずある」と考えて対策をとるべきです。

なぜ高レベル廃液は減らさないのか？

東海再処理工場には約三九三日の高レベル放射性廃液がここ二〇年来、危険な液体状態で貯蔵されています。減らない理由は「装置やクレーンを修理整備中」と答えています。信じて

られません。本当の答えは「ガラス固化技術が完成していないから」です。最悪の場合の影響評価をなぜやらないのか？

物が環境に漏れ出した場合の「環境影響評価」を、「やっていない」と答えています。一九七七年に西ドイツ政府が行ったように「最悪の場合、国民の半数死亡」という結果が出るかもしれない。再処理から早急に撤退し、高レベル廃液を完全に処理（早急なガラス固化等）する以外、安心して眠ることはできません。（S&J）

高レベル廃液漏洩事故への対策はあるのか？

2、前回の市民団体への回答に関わる再質問

市民団体再質問	JAEAの再回答書の要旨
問1 廃液の沸騰や爆発を食い止められなくなった時の、被害を最小化するための最後の手段は？	貯槽が設置されているセル（コンクリート製小部屋）に直接冷却水を入れて冷却する。約4800㎡と約5000㎡の貯水槽がある。
問2 福島原発並みの大津波が来ても「水没状態のセルは海水で冷やされる、水素滞留も防げる」という根拠は？	換気口から海水が浸入するが、セルは頑丈に出来ているので冷却や掃気用配管は破損しない。移動式発電機や掃気用窒素ボンベで長期にわたり沸騰・爆発を抑えられる。
問3 高レベル廃液が環境に漏れ出した場合の最悪のケースの調査報告書があるのか？	ステンレス製の漏洩液受け皿があり漏れ出すことはない。ガスの緊急用圧力逃し系がついている。漏れ出すことがないので影響評価はしていない。
問4 万が一の地震などで高レベル廃液を環境に逃さないようにするため、廃液をゼロにするべきではないか？東海工場がガラス固化が何年も進んでいないのはなぜか？	高レベル廃液は現状の保管状態で安全性は保たれている。放射性物質を安定して閉じ込めるために廃液のガラス固化をしてゆく。ガラス固化セル内クレーンの補修作業中であり固化施設の点検終了後運転を再開する。
問5 制御出来ない事故を想定した総合対策はあるのか？市民代表や第三者を加えてほしい。	大震災後に設置された原子力施設等専門部会の抜本的見直し検討結果を踏まえ国の方針に従って事業者としての防災計画見直しを充実させる。
問6 「最悪事態の緊急防災訓練」は実施しているか？事故が同時多発した場合を想定しているか？	高レベル廃液掃気・崩壊熱除去装置の同時全停止を想定した訓練は 2月1日 3月15日 4月20日に実施した。マニュアルも整備している。
問7 高レベル廃液の貯槽個数 構造図 冷却・掃気などの安全構造、配置図。廃液の核種名と濃度を教えてほしい。	分離精製工場に 90㎡が4基 120㎡が6基。廃液には セシウム、ストロンチウムが含まれ 濃度合計は10の10乗 Bq/㎡。
問8 3.11大震災で東海再処理工場は停電46時間断水85時間、道路1m陥没ヶ所などあったが影響は？	外部電源は停電したが、非常用の発電機により必要な電源は確保出来た。道路や建物周辺に陥没があったが建物自体には被害が及ばなかった。
問9 福島大事故をJAEAとしても深く反省しているというが 何をどう反省しているのか？	住民に多大な被害を与えた原発事故を防げず、深く反省している。最新知見を反映させ安全確保に万全を期する。復興活動に最善の努力を行う。

最悪の核施設
六ヶ所再処理工場

稼働すれば、
世界が汚染される。

施設の欠陥、直下の活断層……

小出裕章・渡辺満久・明石昇一郎
集英社新書 700円＋税

「最悪」の核施設
六ヶ所再処理工場

小出裕章・明石昇一郎・
渡辺満久 共著
集英社新書・七〇〇円＋税

◆本の紹介
六ヶ所再処理工場は、東海再処理工場の五倍もの処理能力を目指し作られ、廃液二四〇tが蓄積されています。再処理を「脱原発」の議論の盲点にしてはなりません。